

# 家族の一員として、生活をよりよくしようとする子どもの育成

-第5学年「家庭の仕事」の実践を通して-

宇和島支部

## 1 研究の視点

- (1) 主体的な学びを促す学習展開の工夫
- (2) 家庭との連携

## 2 実践事例

- (1) 題材名 「できるよ、家庭の仕事」

- (2) 目標

- 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることについて理解する。
- 家庭の仕事について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭生活と仕事について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童（29名）は、4月から始まった家庭科の学習を楽しみにしている。特に、調理や裁縫に興味を持っている児童が多く、1年後、2年後にどのようなことができるようになりたいかを話し合ったときは、「料理を作れるようになりたい。」「ミシンを使って作りたいものを作れるようになりたい。」という思いを伝える児童が大勢いた。一方、「家庭生活と仕事」に興味を持っている児童は少なく、家庭生活についての具体的な活動内容を話す児童は少なかった。

家庭の仕事については、家庭科として初めて学習を行う。2年生活科「お手伝い大作せん」で、家庭の仕事をお手伝いとして取り組んだ経験はあるが、責任を持って継続的に家庭の仕事を行っている児童は少ない。家庭の仕事がたくさんあることは理解しているが、自分から進んで行う児童はほとんどおらず、「頼まれたら断わりたいと思うが、する。」という児童が多かった。また、「家庭の仕事をお手伝いして改善しているか。」の問いには、ほとんどの児童が「いいえ」と回答しており、家庭の仕事をお手伝いして改善し、生活をよりよくしようという思いには至っていない。

- 本題材は、家庭の仕事を一時的な手伝いとして行うのではなく、家族の一員として責任を持って継続して行うことを目標としている。

児童は「お手伝い」として自分にできる家庭の仕事をしてきた経験がある。その経験を基に、家庭の仕事を見つけて、家族の誰がいつ行っているのか、どのような思いでしているのか、どのような工夫をしているのかなどを調べる。実際に家族に聞いて調べる活動を通して、家庭の仕事の多様さや家庭の仕事に対する家族の思いを知り、家庭生活をよりよくしていこうとする態度も育てることができると考える。

- 指導に当たっては、ねらいを明確にして、家庭の仕事の多様さや大変さを取り上げるとともに、家庭生活を支えている家族の思いにも気付かせたい。また、家族の一員として、実際に学習したことを生かして協力していこうとする実践的態度も育てていきたい。そのため、家庭の仕事の中から自分が行う家庭の仕事の手順や方法を計画し、家庭で実施、振り返りを行う。その後、学校で実践紹介を行い、新たな課題に気付いたり実践をより工夫したりして、再度家庭の仕事を行うという学習活動を繰り返し行う。家庭での児童の実践については、保護者にコメントの記入を依頼し、児童の取組が家族の時間を分け合い、家族を支えていることにも気付かせたいと考える。

児童の実践の後は、互いの実践を紹介し合う時間を毎回設定する。自分の実践を振り返るとともに、それぞれの家庭によって多様な仕事があり、仕事の手順や方法が異なることにも気付けるようにして、自分の家庭生活を今まで以上に大切にしようとする心情を育みたいと考える。なお、家庭環境の違いがあることに十分配慮して実践紹介の時間を設定し、児童それぞれの実践のよさを見付け合う時間にしたいと考える。

(4) 指導と評価の計画

ア 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることについて理解している。	①家庭の仕事について問題を見いだして課題を設定する。 ②家庭の仕事について、様々な解決方法を考える。 ③家庭の仕事について、実践を評価・改善する。 ④家庭の仕事について、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭生活と仕事について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ②家庭の仕事について、振り返って改善しようとしている。 ③家庭の仕事について、工夫し、実践しようとしている。

イ 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることについて理解することができる。 ・学んだことを振り返り、自分のできる仕事を見付ける。 ・見付けた仕事に取り組む計画を立て、実行する。	①家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることについて理解している。(ノート、行動観察)	①家庭の仕事について問題を見いだして課題を設定している。(計画・実践レポート) ②家庭の仕事について、様々な解決方法を考えている。(計画・実践レポート)	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭生活と仕事について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(ノート)
	○家庭の仕事の実践についてまとめたり、振り返ったりする。			
2	○家庭の仕事について、実践した結果を評価・改善し、新たな課題を見付け、次の実践に取り組もうとする。 ・実践を評価し、改善する。 ・新たな課題を見付け、家庭の仕事への今後の思いをまとめる。		③家庭の仕事について、実践を評価・改善している。(計画・実践レポート) ④家庭の仕事について、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(計画・実践レポート)	②家庭の仕事について、振り返って改善しようとしている。(計画・実践レポート、行動観察) ③家庭の仕事について、工夫し、実践しようとしている。(計画・実践レポート、行動観察)
	○家庭の仕事の実践についてまとめたり、振り返ったりする。			

※ 配当時数のないところは、家庭学習

(5) 活動の実際

ア 主体的な学びを促す学習展開の工夫

(7) ねらいと振り返り

毎時間のねらいを明確にして活動に取り組み、振り返りを確実に行った。児童の実践について、持ち帰っているタブレット端末を使って活動を記録するとともに、家庭科ノートも活用して文章で記録を残すようにした(資料1)。題材の評価規準である知識・技能①や主体的に学習に取り組む態度①について書いている児童が多数おり、活動のねらいを理解して家庭で実施し、振り返りを行うことができていることを感じた。

①学習をふり返り、仕事を決める	②計画を立てる	③実行する	④ふり返る	⑤生かす	⑥続ける
選んだ仕事 (夕食を作る)  選んだ理由 (夜はお母さんが忙しそうだったから)	ふだんお手伝いしていることを生かしてわたしに作れるメニューを考える。 できること・お米ぎ盛りの洗い野菜を洗う	実践する日 6月6日 の夕方(夕食) ・カレーライス ・野菜サラダ	実践した日 6月6日 夕食後 家族に感想をきく。 作り方をおさらいする。	カレーライスと同じ手順で作るシチュエーションがなくても作りそうな気がします。	家庭の仕事を手伝いできるより、私にできるお手伝いをこれからも続けます。
振り返り(うまくいったこと・大変だったこと) ふだんのお手伝いの経験が役立って、上手に野菜を切ることができました。家族によるこんでもらえてうれしかったです。			家の人からの感想 自分ができることを考えて、家族みんなの好きなメニューにしてくれました。お皿洗いまで分担してくれたのは余裕ができて、これからはみんなでお茶もできて、うれしかったです。ありがとうございます!!!		

〈資料1 家庭科ノート〉

(i) 言語活動の充実

児童は、自分の実践について、写真を撮って記録するだけでなく、回を重ねるごとに記録の仕方を工夫するようになってきている。取組の詳細が分かるように日付や説明を書き加え、ただで分かりやすいスライドを作るようになってきた(写真1、2)。そのため、実践紹介は、朝の会の時間を活用して短時間で言い、その後、手順や方法、いつ行ったのかななどを質問し合う時間も確保できるようになってきている。



〈写真1 スライド〉



〈写真2 スライド〉

イ 家庭との連携

(7) 学校と家庭をつなぐ学習展開

本題材では、家庭でしかできない実践内容がある。家庭環境を考慮して、初めは全員に自分のシューズ洗いの実践を促し、実践紹介の時間を設定した(写真3)。その後、自分ができの仕事を探して、実践手順と方法を考えて計画を立てた。家族に家庭の仕事の内容や手順を教えてもらう児童もおり、児童からの質問への返答、家庭の仕事を見習うことへの協力、見

童の取組についてのコメント記入を家庭に依頼した。家庭での実践期間は、初めは1週間設定して、児童と家庭の方がゆとりを持って実践できるようにした。また、各家庭で仕事内容や実践回数に違いが出ることを児童に伝え、自分にできる範囲で行うように声を掛けた。再度シューズ洗いをを行った児童もいれば、調理や掃除などを実践した児童もいた(写真4)。実践紹介を行うことで、実践する喜びを共有して、新たにやってみたい家庭の仕事を見つけて計画を立てたり、より効果的な家庭の仕事の仕方について考えたりする姿が見られた。



〈写真3 シューズ洗いの実践〉



〈写真4 自分で計画した家庭の仕事の実践〉

(イ) 継続的な実践を促す工夫

「家庭の仕事の実践計画を立てる。家庭で行った実践をタブレット端末で写真に撮り、ロイノートを使って提出箱に提出する。全員の実践がそろったら実践紹介を行い、振り返りを行う。」という活動を繰り返し行った。実践紹介を基に次の実践計画を立て、月曜日までに実践して提出という活動を継続することにより、見通しを持って実践計画を立て、実践することができた。「先生、早く紹介したいです。」という声が次第に増え、実践紹介を楽しみにしている様子も見られた。また、家族に撮影を依頼したり、家族で協力して仕事をしたりするなど、家族と過ごす時間が充実する機会にもなった。

3 成果と課題

実践に当たっては、家庭との連携があつてこそということを実感した。家の人からの感想の欄には「助かった。」「うれしかった。」「お休みになると料理をしてくれるようになった。」「ありがとう。」「これからも続けてほしい。」など、温かい言葉があふれている。本題材の児童

一	「ぼくは、家庭科の学習を振り返り、いろいろな経験をしました。家庭の仕事では、できる仕事をしたり、自分がやったことないことにも進んでしたりしました。例えば、「朝ごはんを作ったり、洗たくをしたり、自分一人ですることがふえました。」
学 期	これから、やったこと、できるようになったことを生かしていきたいです。

〈資料2 学期末の振り返り〉

童の取組が、家族の時間を分け合うことにつながったという記述も見られた(資料1)。家庭の仕事に協力し合って取り組むことが、家族の時間を大切にすることにつながるという気づきを児童に促すことができた。今後は、児童がこの取組を継続していきたいと思う手立てを工夫していきたい。

しかし、児童が自分自身の成長を自覚し、家庭生活をよりよくしようと工夫した実践は十分ではない。学期末に振り返りの時間を設定して、自分の成長への気づきを促したい(資料2)。また、学校と家庭との連携を今後も大切にして、児童が家族の一員として家庭生活をよりよくしたいと考える実践を更に研究していきたい。